

(以下文中敬称略)

日本文化チャンネル桜代表取締役社長・頑張れ日本!全国行動委員会幹事長・水島聰が安倍前首相に竹中平蔵を起用することに懸念を伝えた処「それは政治です」「水島さん彼は学者では無く、政治なんです」と言われたようである。しかしその政治の意味を誰も言ってくれないので、その政治の意味を考察してみる。

パソナの前身

私的な話であるが、筆者は個人事業としてマイコン関連の開発の仕事を請負っていた時に、仕事を貰う為に技術系雑誌に登録したところ、大阪の会社から連絡が有った。開発の仕事の打診かと思い合って話したが、大阪の会社の人は「開発業務でも貴方は働く必要は無ありません。貴方は若い人の管理だけやれば良いと言われた。

この言葉を聞いて、この大阪の会社がどのような会社か分かった。開発の仕事でリーダーが働かない事はまず無い。チーム内で一番働くくてはならないのはリーダーだからである。この事を分かっていない此の大坂の会社には仕事に対する責任感が全く感じられない。感じたのは只のピンハネ会社だろうと言うことである。

当然ながら、この大阪の会社にとって人とは鶉飼の鶉で、私に鶉匠の片棒を担いでくれないかの誘いだったようである。勿論彼から見れば私も鶉でしかないだろう。

そしてその会社の名前はテンポラリーエルダー。人材派遣会社パソナの前身である。そのパソナグループ取締役会長が安倍政権で重要な役職を持っていた竹中平蔵なのだ。

人材派遣会社はピンハネ会社

人材派遣会社と言えば聞こえが良いがはピンハネ会社である。人間に例えればヒモである。その恥すべき職業の人間が安倍政権・菅政権のブレーンである。

ピンハネと言えば、下請け孫請けを使うゼネコンが有名であるが、ピンハネするゼネコンも下請けも、請け負った仕事を完成させる責任が有る。企業が人を雇うのはやるべき仕事があるからである。ゼネコン等のピンハネはコストダウンの為だが、彼らのコストダウンの追求は自動機械の開発などに行き着く。つまり一人当たりの生産性向上をもたらすかも知れないのだ。

ところが先に述べたように、人材派遣会社は仕事に対する責任感は無く、彼らが追求するのは如何に多くの人間からピンハネするか、ピンハネする率を如何に多くするしか頭には無い。人材派遣会社が如何に努力しようが、日本社会に貢献するわけが無い。そもそもピンハネ業などは日本に不要な存在なのだ。

労働者のやる気を奪う派遣労働

日本企業の世界への躍進は、社員の自発的貢献によるものが大きい。QCサークル、改善、トヨタのアンドン、などはその代表である。殆どの企業の発展は労働者の積極的な貢献の為なのだ。しかし派遣は労働者のやる気を削ぐ。

派遣労働者は使う側にとって彼らは一時的な道具。例えば派遣労働者は職場のミーティングに参加させないとか、

同じ職場に居ても正社員とは待遇・意識等に厳然たる差が有る。それに賃金の30%もピンハネされればやる気がなくなるのは当然だろう。結局のところ派遣労働は人間を奴隸根性にする仕組みなのである。

日本人奴隸化が目的の派遣労働システム

竹中平蔵はTV番組で「正社員をなくしましょう」と言っているので、日本国民の殆どを派遣労働者に置き換える目的である。事実、現在日本の労働者の40%程が非正規労働者であり、竹中平蔵の目的、即ち日本人を奴隸化する目的は叶いつつ有る。

奴隸と言えば、菅政権のブレーンになったデービット・アトキンソンの言葉を思い出す。彼は「おもてなしは上から目線だから駄目だ」と言う。おもてなしは主人が最大限の気配りをして客をもてなす言葉であり、上下関係など無い。それを彼は気に入らないと言うのは何故か。それは主人目線が気に入らないからだろう。主人は英語で言えばマスター、その反意語はスレイブ(奴隸)。つまり日本人は奴隸として下から目線でいろと言う意味になる。

外国人雇用も世界の民の奴隸化システムの一環

派遣労働の仕組みは日本人の奴隸化だけでは無い。それは外国人労働者の受け入れ問題を見て分かるだろう。現在、外国人労働者は特定技能を持つものだけ在留資格が認められているが、それは派遣労働が初めは特定な技能者だけとしていたのと同じ推移をたどっている。恐らく外国人労働者の職種は、派遣労働がそうだったように全職種が可能になる筈である。そして人材派遣会社がその仲介を行う筈である。

高橋洋一は竹中平蔵の話題で出た派遣労働について、「西欧では一般的で日本は未だ少ない方だ」と言う。何時も損得勘定を論理的言う高橋洋一にして珍しい言い分である。竹中平蔵を擁護したかったのかも知れないが、派遣労働の功罪についての説明になっていない。彼の論法で言えば「西欧は奴隸を使うのが一般的なのに日本は遅れている」となるだろう。彼は新自由主義者と言われることに対して、レッテル張りだと否定するが、逆に自分が新自由主義者であると馬脚を表してしまったようである。功罪・損得について説明出来ず、「これが世界標準だ、日本は遅れている」等と言うのが新自由主義者だからである。

高橋洋一が言うように、派遣労働は西欧では一般的なようである。しかし派遣労働者はピンハネ対象であり、現在の奴隸である。その奴隸の供給元がシナでありアジアであり、そして日本人の奴隸化である。

竹中平蔵の政治的意味

このことは安倍元首相のニューヨークなどの講演「世界最短で永住権を取得できるようにする」「もはや国境や国籍にこだわる時代は過ぎ去りました」と無縁では無い。永住権を取得はアメリカ人を対象にしたものでは無く、日本を世界標準である奴隸使用についての開放した国にする約束であったと考える方が妥当であろう。そしてその象徴が竹中平蔵の起用であると考察したが、どうであろうか。

昔は奴隸は市場で売っていた。

現在の奴隸はレンタルである。

安倍政権や菅政権が竹中平蔵の起用する政治的意味

**昔は奴隸は市場で売っていた
現在の奴隸はレンタルである**

人材派遣会社はピンハネ会社、人間に例えればヒモ
ピンハネ率は30%程

労働者のやる気を奪う派遣労働

日本人奴隸化が目的の派遣労働システム

外国人雇用も世界の民の奴隸化システムの一環

利用しない利用させないピンハネ会社(派遣会社)

日本から無くそうピンハネ業

頑張れ日本！全国行動委員会 茨城県本部

ホームページ : <https://www5.hp-ez.com/hp/ganbarenipponibaraki/home>

ブログ : <http://ganbanihoniba.tou3.com/>